

## 1. はじめに

紹介する内容（新しい日本人論、SB新書、2020/02/15）は、石平、加瀬英明、ケント・ギルバートの鼎談です。各氏とも良く知られた方ですが、石平氏は、評論家、四川省生まれ、2007年日本に帰化、愛日家を自任。加瀬氏は、外交評論家、福田・中曽根内閣で首相特別顧問、保守論壇の重鎮。ケント氏は、カリフォルニア州弁護士、タレント、日本を愛するアメリカ知識人のひとり。

タイトルから推察すると、なにか重たい内容の様な思いましたが、そうでもなく各人が日本（人）に思うところなどを語りあっています（小生の読解力には問題ありでしょうが・・・）。

ただ保守系評論家、日本びいきの人達という前置きは必要でしょう。

## 2. 鼎談の概要

鼎談は、日本の天皇と神道、日本文化の本質とは、混迷する国際社会と日本、日本の強みをいかに活かすかといった視点で整理されていますが、タイトルに合わせて私の独断と偏見で、新しい日本人論に関わりそうな事柄とそれ以外で皆さんの参考になりそうなことに分けて紹介します。

### 1) 新しい日本人論

- ・大嘗祭/民族の原点に戻る儀式・日本の神道の原点。
- ・天照大神と八百万、千（ち）万の神/無限の神

天照大神の下に平等におられて、それぞれが役割（仕事）を持っている。権威はあるが、権力はなし。

欧米やその他の神（神話）は、絶大な権力を持っている。

万世一系の神の末裔である天皇が一つの王朝として続く。そして日本の文化・伝統が新しい文明から取り残されたことは一度もなく、中華文明、西洋文明を取り入れて来た。

- ・人対自然という人間が思い上がった発想も対立もなかった。自然との共生。

欧米は神が人間のために自然を造った。自然を管理する義務と責任を持っている。

- ・神道や日本人は、人間は自然の一部、全体の一部と感じ、

欧米人は全体と個を別々に捉えて来た/分解、なので善悪は神と悪魔に二分/分割する。

日本にはその様な分割はせず、そこで大事にするものは美、美しいもの。

- ・男女平等、女性の権利、自由恋愛、人権意識、エコイムズ（環境主義）等、西洋にハンデを持っていた様に言われるが、元々あった。例えば女性天皇、相聞歌や読み書き、江戸時代の資源の循環とか再利用は当時としては、進んでいた。

縄文か弥生に始まったエコロジーの信仰が、いまでも続いている（神道）

- ・精神的なルーツは南洋系（キリストやイスラムが入ってくる前のフィリピンやインドネシア

には善悪によって区別することはなかった)。その後朝鮮半島、中国大陸経由で論理が入ってきた。

- ・みんなと仲良く/一番になれ・負けるな/騙されない様に (日本・韓国・中国)

太古の昔から性善説

- ・西洋、中国、インドなど、18世紀まで女性は文盲だった/日本は太古から平等
- ・中国はアメリカを見誤っている/信仰心がない。実力と利益しか信じない、お金しか考えていない人間、人種。袖の下が通用すると思った。
- ・中国には普遍的な基準はない/外で悪でも、内(身内、一族)で善ならそれでよい。だから汚職が蔓延する。

日本の神道的な信仰は、文字が生まれる前、心の信仰。教義がない。

(まとめとして)

石 平氏

原点は天皇と日本固有の信仰である神道にあるが、そこには二者択一を超えた和を生み出せる土壌、その根底は神話の世界観神々が共生する世界で、議論して意思決定をする。

日本人は神々の末裔。防人を讀えてきた。平等感/自然と共生するという神道の世界観=エコロジー、平等感が世界から認識されてきている。

同時に日本を憂うことにもつながっている(強みと弱みから)

### 3) ちょっと参考になりそうな、知らなさそうな、面白そうな話

- ・大嘗祭を経て新たな天皇が誕生する。

即位の礼/高御座・御帳台/中国を模倣したもの

大嘗祭/大嘗宮・主基殿(すきでん)と悠紀殿(ゆきでん)

松の木で造られ、中は二つの部屋(前の部屋と奥の部屋)がある。床は藁を敷き、その藁の上に竹箆を置き、その上に蓆(むしろ)を敷きます。壁は蓆。

入ったところの部屋に、天照大神が降りてこられる。

この9時間の儀式で天皇になられる。日本の神道の原点はここにある。

(一番強いものは、力ではなく、なんでも吸収する柔軟性である(老子))

(原理原則は聖書、戒律も、ここまでは良いが、これは駄目と線引きができる。)

- ・天皇

中国の皇帝や国王は官僚組織を作って、全国を統治したが、天皇に政治権力は全くなかった。権力の行使は、必ずミス、敵をつくる。天皇の任命権は権力にならないかなあ。

天皇の存在が力ではなく、伝統的な権威であること。

新宮殿には金銀、光るものがない。

(文字の読めない人のために、ステンドグラスで聖書物語を見せている)

- ・外では孔子で家では老子

中国では、外では仁/義/忠/孝だった。

儒教は、皇帝や知識人が民をコントロールするための政治的道具だった。官僚も信じてはいない。民は道教を信じている。中国伝統の民族宗教、現世の御利益主義。

- ・異常になりつつあるアメリカ  
分断されていたからこそ、トランプが登場。ウォール街の利益代表/メディアはリベラルの代弁者、トイレは男女どちらでもよい（法律）。ミスター・ミセス、ミスは性差別に繋がるから MX と呼べ。LGBTQ (Queer/奇妙な、変態、Questioning/)  
(婦人は駄目、女性警察官/女性自衛官)
- ・チャイナ・マネーは効果があるか/研究所、マスコミは、金を出したところの言うことを聞く。今はキッシンジャー程度（文化大革命後のニクソン訪中の前に何回も訪問）、今は過去の人。（日本もアーミテージなど昔の人が生きている～～）。
- ・トランプ＝ペンスの政権の本気度/ペンス副大統領の去年 10 月の対中国演説  
米中関税戦争は入口、中国共産党の下の中国を倒したいと考えている（トランプ）。
- ・太平洋軍からインド・太平洋軍に  
アメリカにとっても、今最も重要な拠点、ここ。プレーヤーはアメリカ/中国/インド/日本/ロシア  
海洋勢力（海洋諸国と対等に話し合っ、同盟関係を結ぶ）と海軍力は異なる。後者で覇権を握ることは無理、だから一生懸命海軍力の増強に投資してくれるのは有難い。
- ・アメリカと台湾/台湾と日本  
台湾関係法が成立、台湾が危機にさらされた時はアメリカが守ることを義務付け。  
国交は断絶、軍部と制服での話はできない。中国に併合されたら、安全保障は全く成立しない。
- ・習近平の訪日は天皇利用が目的  
自民党の親中派と公明党（創価学会（池田大作））。
- ・再軍備の利点  
小規模な軍備しか持っていないのは、逆に有利。アメリカは軍需産業が肥大化して、開発スピードが遅くなっている。  
自衛隊の普通科（歩兵）と特科（砲兵）、国民と一体化していない。  
迷彩服をみて不安を感じる国民
- ・信仰としてのエコロジー  
カトリック離れが進んでいる。白人の神父もなり手が無い。対象がエコロジー（？）。
- ・日本の考えられない様な弱み/安全保障をアメリカに依存していること。

### 3. コメント

#### ①知らなさすぎ（忘却も含めて）を実感

記憶力が断然衰えていることは確かですが、さらにやっぱり常識とも言える知識が不足していることを痛感しました。歳のせいで、忘れてしまったことも多いですが、日頃からもっと

補強して行かないと駄目、強く再認識しました。

②無関係と思われる知識を関連づける思考

①の補強が第一ですが、一見無関係と思われる知識と知識を関連付けた思考を深めることも強化しないと～～、感じています。今更の感はありますが。

②神道

私事ながら、私はある神道の信者です。物心つく前？から祖母に連れられ、教会にお参りしていました。もともと、そのころは、お参りするとお供え等のお菓子が頂けることがうれしくて～～でした。今回、所々に神道の話が出てきましたが、改めて考えるところもあり、参考になりました。確かに神道には教義と呼べるものはなく、お供え物や神棚に手を合せて拝むことを強要されるでもなく、それでも教祖様の具体的な口伝は非常に勉強になります。